

上田高等学校同窓会 中南信支部会報

発行
上田高等学校同窓会
中南信支部事務局
題字
(故)松岡翠風(仁太郎)氏
(39期)
安曇野市に居住し、
元全日展書法会副会長等
歴任

会員の皆様へ 支部長 菅谷昭(60期)



ネイチャリングフェスタにて花の植栽

会員の皆様様、その後いかがお過ごしでしょうか。それぞれのお立場で充実した日々を送っておられることと拝察致しております。

冒頭、嬉しいニュースとして、当会の初代支部長でありました小林茂昭氏(54期)が、このたび「信毎賞」を受賞されました。全会員とともに心よりお祝い申し上げます。これからも健康には十分ご留意いただき、ご活躍されますことをご祈念申し上げます。

さて、私は7月7日、久し振りに平成27年度長野支部総会・七夕会に参加しました。懇親会の席上では、多くの懐かしい方々にお会いし、昔話に花を咲かせ旧交を暖めることができ、また私自身の行政運営に対する心からなるご助言や激励をいただき、「同窓」とはかくもありがたきものかと痛感した次第です。加えて大変驚いたことは、卒業期数が3桁の若さあふれる女性・男性会員が増加しており、今後、新たな形での支部活動のご発展を祈りつつ会場をあとにしました。

～第22回支部総会のご案内～

■日時: 11月14日(土)

14:30 開場
15:00～15:45 第一部: 講演会
16:00～16:45 第二部: 総会
17:00～19:00 第三部: 懇親会

■会費: ¥7,000 (学生の方は¥3,000)

第一部のみ参加される方で、'15年度支部年会費1,000円を払われた方は無料です。返信葉書で出欠をお知らせください。

■会場: 松本ホテル花月 松本市大手4-8-9 電話 0263-32-0114

講演会 「若き日のスティーブ・ジョブズ」



セイコーエプソン株式会社 長坂文夫氏 (76期)

略歴

上田市立第4中学校を経て上田高等学校(1978年卒業)
1982年 電気通信大学卒業
日本光学工業(株)(現 ㈱ニコン)研究所 第5研究科を経てエプソン(株)(現 セイコーエプソン(株))に就職
1998年 ㈱エプソン・ソフト開発センター 課長
1999年 セイコーエプソン(株) 課長
2000年 同社 ネットビジネス推進センター 課長
2004年-2009年 同社プリンタ企画設計部 課長
2009年 アイルランド Trinity 大学とクラウド利用画像検索エンジンの共同研究
経済産業省・ジェット推進の Pucc(ピア・ツー・ピア・ユビキタス・コンピューティング・プロジェクト)に参加

2010年 Apple Inc. との共同開発担当

2011年 Google Inc.との共同開発担当

学会・外部活動

IEEE SA 会員
情報処理学会 会員
標準化団体 OATA Printer WG 議長(2004年-2005年)

特許

238件 登録済み

外部講師歴

立命館大学 MOT 大学院でのゲスト講師、
Apple WWDR 1998 で IEEE 1394 Printer のセミナーをはじめ、
日刊工業新聞セミナー、住商セミナー、日本テクノセンター
セミナー等多数

インターネットが生まれる前。まだ電子メールが無く、コミュニケーションといえば会って話をする事だった時代からソフトウェアの開発に携わり、マイコン、PC、クラウドと常に先端を追いかけて来た。市場競争ルールが目まぐるしく変わる現代を IT の切り口からお話します。

第二十二回 信毎賞を受賞して 信州から世界へ

《小林茂昭 (54期)》

平成二十七年七月三日に長野市ホテル国際21にて今年度信毎賞の贈呈式があり受賞の栄誉にあずかった。私が受賞スピーチで述べたことのひとつは、信州という田舎の地から外国に目を向け、交流し、自分の専門において外国でも国内でも評価を得たことを、長野県において認められたことが嬉しいということである。

明治以降多くの若者が自らの意思で世界に目を開いて外国に行き活躍した、また第二次世界大戦の後もそうであった。長い鎖国や閉鎖状態から解放されて新たな展開を求めたのである。我が国から留学して外国で認められ、また帰国して日本で認められて顕彰を受ける例は多くを数える。例えば武士道を書いた新渡戸稲造はその一



授賞式 ホテル国際 21 にて

なで日中戦争・太平洋戦争といえようか。戦時中は、英語は敵国言語として禁止された。子供心にも、パニックを誘導

一般論として、外国留学して学問、文化を学ぶためには語学が必要であることはいうを待たない。私は、昭和十三年生まれ

終戦時小学校二年生であったが、米国に占領押された日本は、英語を教えるようになつた。ただ小学校ではまだ英語は教えなかったが、私の母親が上田高等女学校(染谷高校前身)で覚えたローマ字を教えてくれた。昭和二五年戸倉中学に入つて英語の授業はあつたものの、英語を教える先生が不足していた。当時「Jack and Betty」という英語の教科書はあつたが、田舎では子供たちは英語の勉強には無関心であつた。たとえば中学二年生の時、クラス担任の数学の先生が英語を担当して教えてくれた。皆があまりにもできなかったの

このような状態で田舎の戸倉中学から、都会である上田高校(当時上田松尾高校)に入學した。私は、8組という優秀な生徒が多いクラスに入れられた。はじめの授業で英語の実力テストが行われたとき、単語の「ボックス」がわからなくてとても恥ずかしかつたことが忘れられない。要するに、自分と他の級友との英語の実力差に愕然としたのである。ショックを受けた私はそこで、電車通学の時間には旺文社の「赤尾の豆単」の英単語を初めから覚えることとした。単語知識不足に輪をかけたのが、英語そのものの実力不足で、はじめの夏休みの英語補習授業でシエクスピアのテンペストを教材として読まれたときであつた。まったくチンプンカンプンで解らず「これではとても大学に入ることはできない」と悟つたので、集中的・多角的に英語を勉強することにした。教科書の他に英語の読み物(ポールドウインの「五十有名物語」、ラフカディオ・ハーン、漱石の「心」の英訳等)を教科書の他に読んで

大学時代では、当時医学部では外国語は英語とドイツ語であつた。クラスの中で外国語に興味のある仲間数人を誘つて文献や教科書を英語、ドイツ語で読む同好会を作り、協力して教えてくれる教授を探しては放課後に勉強会を催したりした。そうするうちに英語のみならず外国文化また、外国語一般に関する興味は広がり、ロシア医学研究会にも顔を出してロシア語で、パブロフの条件反射論の本を読んだりした。辞書があれば何とかロシア語は読めるようになった。これは私の父が戦争でソ連に抑留されて帰ってきて片言のロシア語を呟っていたので興味があつたし、当時冷戦の最中であつて、青年にはマルクス・レーニン主義等社会主義論に人気があつたことも影響したかもしれない。ロシア語はそれ以上進まなかつたが、医学部授業で正規の科目にあつたラテン語には興味をもつた。というのも解剖用語にはラテン語文法の知識が不可欠であつたからである。

とはかなり上達したが英会話となるとまったくだめであつたため、外国人のいる市内の教会の英語クラスとか、英会話塾に通つたりした。NHKラジオ英会話も有用で安くしかも毎朝登校前の短時間で有用であつた。自習ができるリガフォンの英会話レコードも使つた。

医学部を卒業すると、当時インターンと呼ばれた卒業後臨床研修を一年間行う制度であつたが、インターン研修病院は大抵無給であつたが、給与があり英語もできる病院として横須賀にある米国海軍病院に目をつけて選んだ。選考試験では勿論英語であつたが、知識を問う筆記試験はまだしも、口頭試問が難関で、これには想定質問に対する答えを予め覚えておき対応した。このようにしてこの病院に集まつた一六名の同期生は全国の大学から応募して来ていて、医学の基礎知識も英語力もかなりのレベルであつたので刺激を受けたし、全員が将来外国留学を目指していた。自分の進路もここで決つた。すなわち当時まだ日本の大学には殆どなかつた科目の脳神経外科を米

さで、六年間のメイヨー・クリニクの研修であつたが、年限が進むと段々と医療の内容と責任が高度になっていった。また、自由と平等の国、米国とはいえ、実際に中に入ってみると、人種差別を感じないわけにはいかなかった。三年四年とたつと、手術を新人に教える立場になつてきたあるとき手術中少しきつて手術について指導したとき、その白人の下级生が私を「ジャップ」とののしつて一瞬部屋が静まりかけたことがあつた。病棟主任になる順番も、同学生でも米国人の方が先に主任になつたりしたが、これは英語力の問題もあつた。一概に言えないこともあつたであろう。ただ押しなべて平等に扱つてくれたといつてよいであろう。

そのような米国における人種差別的なエピソードもあつたが、何よりも、この期間にいろいろの人々と築いた個人的信頼関係が非常にその後の私の進路に及ぼした影響は大きい。同じ釜の飯を食べた同僚、手術の助手を毎日のように長時間務めさせてくれ、患者の生死の現場で日夜協力して治療した上司、論文指導を一所懸命にしてくれた上司。日常の忙しさをねぎらつて家族ぐるみで招いてくれたバーベキュー、クリスマス・パーティーなどを通じて心の交流ができたのではないかと思う。日本にいても勿論同じような人的交流ができるのであろうが、外国人とできたことは何よりも自分の財産だと思ふ。

米国では、日本国内にある学関的なものはあまり感じられない。米国は基本的には実力によって評価される社会といえる。その意味において基盤となる良好な人間関係があるということは何用であつた。

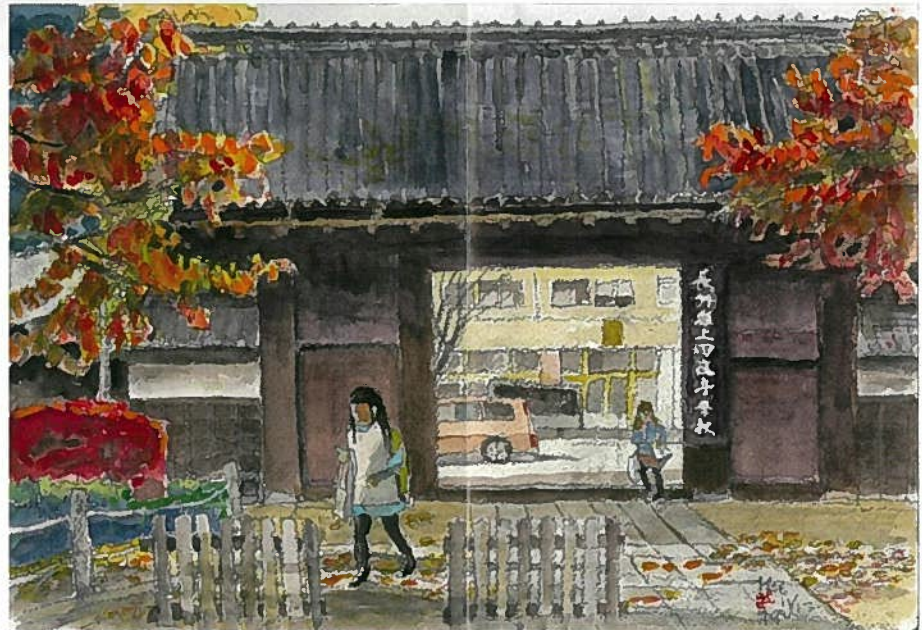
わかれた。結局、その年の同賞は私に決まつて米国に行つて受賞した。優秀な友人がしかるべき地位について、勝手に私を推薦してくれたことが嬉しかつた。その二年後の2007年に米国脳神経外科学会会長になつた友人が、私を、米国脳神経外科学会の国際功労賞に推薦してくれ受賞することになった。デンバーの学会の大ホールで受賞したとき聴衆全体のスタンディング・オベーションを受けた感激は忘れられない。脳外科分野では引き続き2011年に日本脳神経外科学会斉藤真賞を受賞した。今回の信毎賞は、脳外科関係団体ではなく、信州という自分の生まれ育つた地で、私の学問的業績と国際交流の実績を認めていただいたものと思ふ。その中でも1998年の長野オリンピックの時の医事責任者として県内訳9000人の医療・救急関係者を組織して、外国の関係者との対応も信用されて遂行できたのも、英語によるコミュニケーション能力が信頼を得るうえで役立ったのではないかとも思われそれを受賞理由の人一つではなかつたかと思ふ。

インターンを終了して、一旦母校の信大の外科大学院にはいつたが、留学の希望捨てがたく、いくつかの米国の病院に応募していたところ、一年半後にミネソタ州のメイヨー・クリニクに受け入れられ留学することに

このことは、自分の専門分野において、国際会議にも信用して講演を依頼されるし、国際誌に投降した論文に関しても注目されて採用されたり、専

メイヨー・クリニクに行つたときにメイヨー・クリニクの教授たちが幾つ論文を書いているだろうかを図書館で調べたことがあつた。彼等はそれぞれ一五〇〇四五〇編であつて、とても自分はその間に書けないと思つた。しかし、今になって自分のこれまでの論文を調べてみると英文論文がほぼ四〇〇編となつており、日本語も同数くらいある。丁度、大学を定年となつた頃、その年のメイヨー・クリニク学術業績功労賞の候補の公募があつた。メイヨー・クリニク留学当時同じ飯を食ひ、最も親しかつた同僚でメイヨー・クリニクの教授になつていた友人を推薦しようとしたところ、彼は、「私はお前さんを既に推薦した」と言

いずれにせよ、上田高校入学時に英語の劣等生であつた自分が、このような人生を歩むことになろうとはつい思ひなかつた。人生とは異なるものと思つて感じる次第である。



古城の門 画 武村洋治(58期)

門分野における最新の情報・知見等を教えてくれたりして役立つた。また、開発国に対する学問的援助も共同して行い易い状況と



深澤 昌美 (49期) 箕輪町

生まれて初めての入院手術を受け自らの老齢の現実を感じましたが、脳天気の私、また年齢のことは忘れてゴルフのためのウォーキングの日々です。

昨年の総会に出席し、すばらしい後輩諸氏の活動を接遇に感謝。

藤澤 良彦 (52期) 松本市

松本市町内公民館長会の広報創りに精を出しています。広報的仕事は高校時代の新聞班で覚えたものです。

地域では鎮守の社音楽祭(十の異楽器の演奏)を試みました。趣味の童謡唱歌歌うモノミは今年二十周年記念演奏会を企画しています。

原 三良 (63期) 高森町

一昨年の九月吉日、高森町の松岡城址に没後五百年記念碑が地元有志により完成しました。折か

ら松岡翠風氏逝去の報に接し、世間は広いようで狭いと、思いが頭をよぎりました。

吉村 哲郎 (66期) 松本市

昨年は餅米も飯米(こしひかり)もはぜかけ米に挑戦。何とかやりとげました。純米原酒「寿一番星」も大好評でした!

高橋(旧姓和田) 典子 (71期) 安曇野市

しばらく埼玉と安曇野(夫の実家)を行き来していましたが一昨年こちらに移ってきました。仕事(司法書士)と野菜づくりをボツボツやっています。多少なりとも地元の皆様のお役にたちたいと思っています。

清水 茂子 (77期) 飯田市

昨年の会報の「地元カンパニー」の話を読んで、とてもいいなと思いついた。進学して都会に人材が出て

しまうのはもったいない。是非ラインしてほしい。その働きかけも必要だと思えます。自分の子供達も含めて。

宮崎 達也 (81期) 松本市

中学校野球部の監督をしています。菅谷市長のおかげで被災による転入で松本を選んでくれた千葉県からの双子の兄弟が大活躍してくれ、初の県制覇ができました。出会い、縁のありがたさを強く感じています。

清水 賢一郎 (83期) 駒ヶ根市

中学校で柔道部の顧問をしています。柔道をとりにまく状況は大変厳しく、競技人口減少に歯止めがかかりません。伝統ある母校柔道班も部員確保が厳しいと聞きました。少しでも柔道の発展に貢献できればと考えています。母校柔道班の復活を心から祈っています。



コスモス 武村洋治(58期)

事務局 会計からのご報告

2015年7月末会員数 571人。

支部財政は皆様のご理解、ご協力によりまして、徐々に健全化してまいりました。

毎年約 100 名の方々から会費納入頂いており、会報の発行ほか支部運営に活用させていただいています。

あらためて感謝申し上げます。

今年度も振込票を同封させていただきますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

第 18 回 SBC 長野県高校 OB 対抗ゴルフ大会報告

グリーンも心もしっとり濡れて

吉村 哲郎(66期)



前列よりB・A・Cチームのスタート前の雄姿

やる気をそぐような雨が、朝からしとしと降り続けている。時折、風もあちこちから吹いて来る。そんなコンディションの中、今夏も県内 14 校 26 チームの精鋭が豊科カントリークラブに集まった。第 18 回 SBC 長野県高校 OB 対抗ゴルフ大会。上田高校勢は昨年引き続き 3 チームがエントリー、熱闘を展開……する予定であった。

月ごとにコンペを開催している 59 期で固めた上田 C チーム。今秋に 60 回記念大会開催予定の結束強固な 66 期の A チーム。昨年度のシニアの部優勝チームでもある。

そして「ゴルフ中农信上田会(武村洋治会長・58期)」代表である我々 B チームは、常連の大口静雄氏(59期)、久保田信二氏(61期)、吉村の3名で参加、まさに背水の陣である。

カッパを着て傘をさし、「悪条件はどのチームも同じ」と重い心に言い聞かせてスタートしたのだった。

さて表彰式。スコアは書かぬが花というものだろう。我がチーム 3 名中 2 名が「100 叩きの刑」だったのだから。案の定、成績が発表されると上田高校チームは 18・19・20 位という成績。我々 C チームは 20 位という惨憺たる成績だったが、運良く「ジャスト賞」とのことで、その夜のやけ酒には充分な量のビールをゲット出来ました。と報告して終わりにします。

来年に乞うご期待!